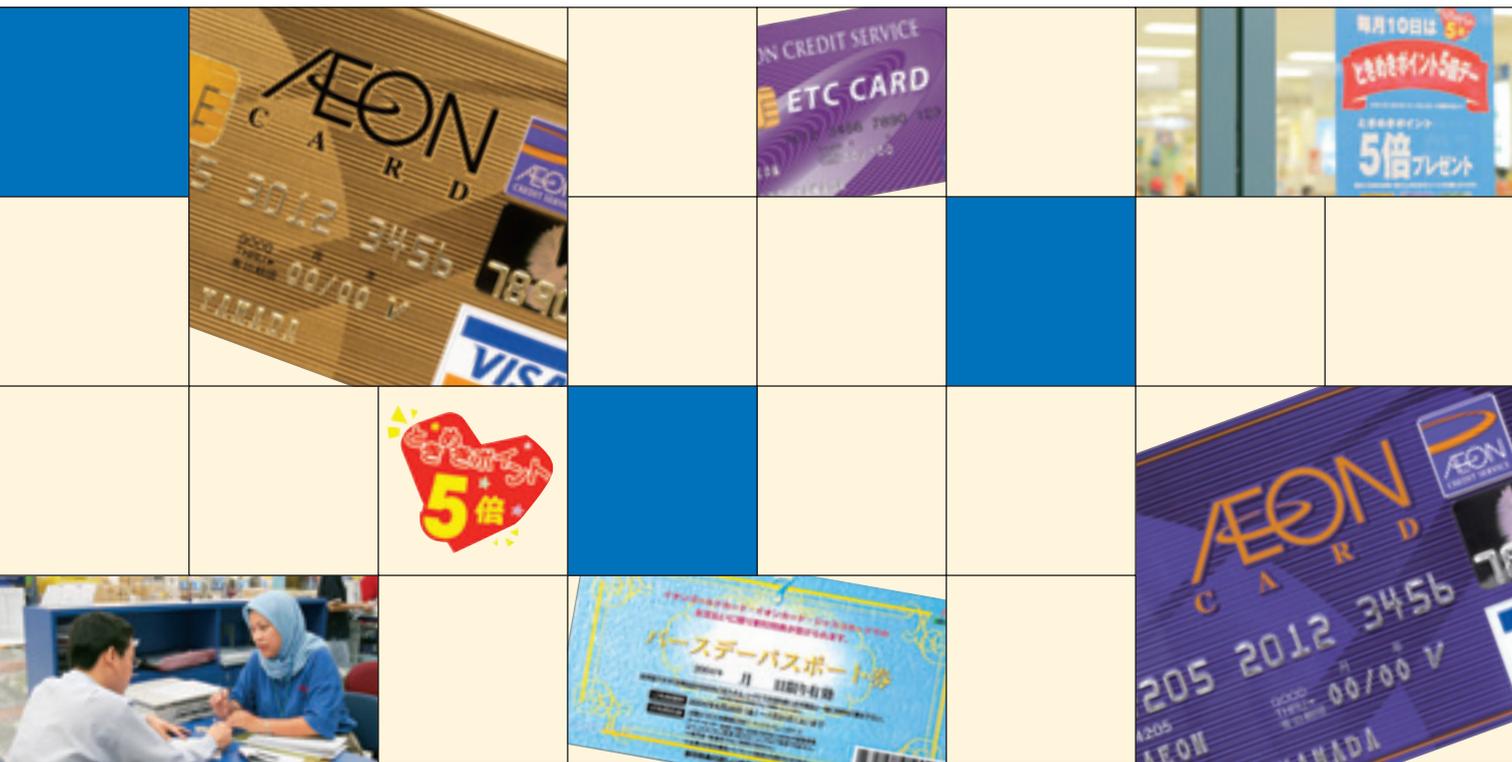


第24期 中間事業報告書

2004.2.21 ~ 2004.8.20





代表取締役社長
森 美樹

株主の皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第24期中間事業報告書をお届けするにあたり、日ごろのご支援に対し心より厚く御礼申し上げます。

当期の業績

当中間期は、インターネットでの会員募集や新たな顧客層を対象にした提携カード発行に積極的に取り組むとともに、ポイント制度の充実など、カード稼働率向上に向けた取り組みを強化いたしました。

また、海外子会社におきましては、香港、タイ、台湾でのクレジットカード会員数が200万人を突破するとともに、マレーシアで外資系ノンバンクとして初めてクレジットカード発行ライセンスを取得するなど、アジア圏での事業を着実に拡大させることができました。

これらの結果、当中間期の連結業績は、取扱高8,958億87百万円(前年同期比15.7%増)、営業収益586億82百万円(同13.1%増)、営業利益143億95百万円(同17.1%増)、経常利益144億86百万円(同17.4%増)、中間純利益75億78百万円(同15.8%増)と会社設立以来の最高益を更新し、増収増益を継続することができました。

また、当中間期の単独業績は、取扱高8,068億64百万円(前年同期比14.4%増)、営業収益452億99百万円(同15.6%増)、営業利益115億19

百万円(同12.8%増)、経常利益119億88百万円(同12.8%増)、中間純利益68億81百万円(同12.6%増)となり、連結業績同様、増収増益を継続することができました。

下期に向けて

クレジット市場につきましては、医療機関・公共料金等の現金決済市場の開拓や、ICカード・電子マネーによるキャッシュレス化の浸透を通じて、市場規模拡大を続けており、今後より一層の成長が見込まれております。

このような環境の中、当社におきましては、業界平均を上回る「成長力」、業界No. 1の高い「生産性」などの競争優位性をさらに強化するとともに、お客さまの声に着実にお応えし、価値あるサービスを提供し続けることで、「イオンカード」のブランド醸成に取り組んでまいります。

あわせてクレジット周辺事業の育成、アジアでの事業拡大に取り組むとともに、個人情報保護をはじめとするCSR(企業の社会的責任)への対応につきまして、より一層強化してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年10月

2005年2月期重点実施事項

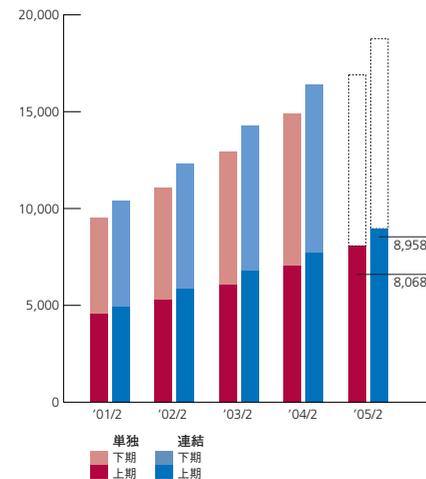
- カード稼働率向上とカード会員の拡大
- 新しい金融、サービスの提供
- クレジット周辺事業の育成
- アジアネットワークの拡大
- 経営体質の強化
- 環境保全、社会貢献活動の推進

当中間期におきましても、 過去最高益を更新し、増収・増益を継続して達成いたしました。

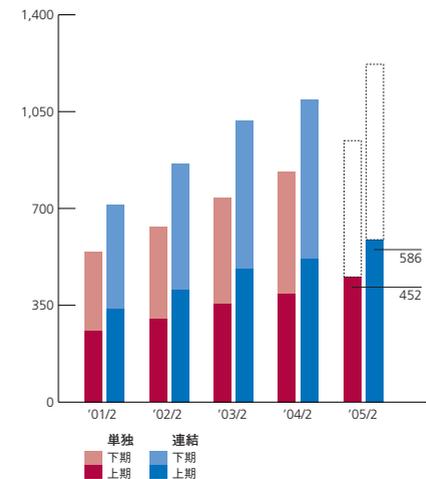
2005年2月期 中間決算ハイライト

	連結決算		単独決算	
	当中間期	前年同期比	当中間期	前年同期比
取扱高	895,887	15.7%増	806,864	14.4%増
営業収益	58,682	13.1%増	45,299	15.6%増
経常利益	14,486	17.4%増	11,988	12.8%増
中間純利益	7,578	15.8%増	6,881	12.6%増

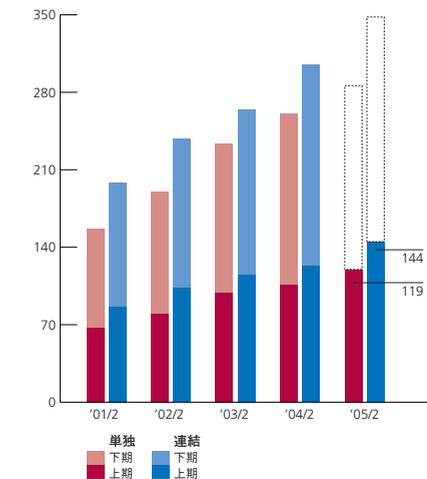
取扱高
(単位:億円)



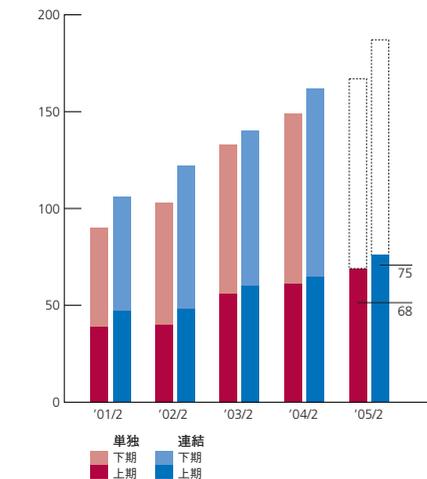
営業収益
(単位:億円)



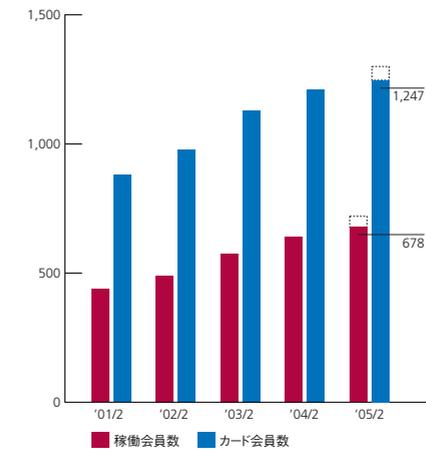
経常利益
(単位:億円)



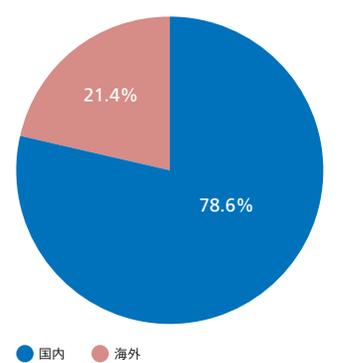
中間(当期)純利益
(単位:億円)



会員数
(単位:万人)



営業収益の構成比
(単位:%)



国内

- 「ときめきポイント5倍デー」、「バースデーパスポート」など新たなサービスを開始
- カード利用促進企画の積極的な推進により、稼働会員数が大きく増加
- 全てのカードの盗難保障料およびETCカードの年会費を無料化

海外

- 香港、タイ、台湾でのカード会員数が日系ノンバンク最大級となる200万人を突破
- マレーシア現地法人が外資系ノンバンクで初めてクレジットカード発行ライセンスを取得
- 広州(中国)、ジャカルタ(インドネシア)に営業拠点を開設

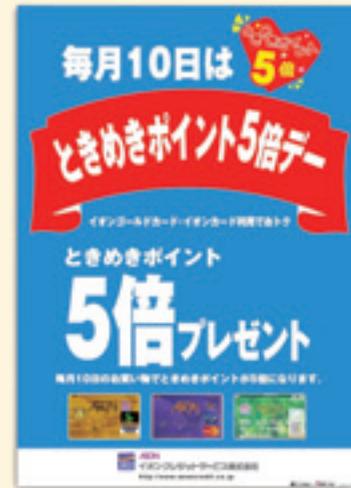
これからも、より一層愛されるカードに 日ごろのご愛顧に感謝し、2つの新しいサービスを開始

新サービス1

毎月10日の「ときめきポイント5倍デー」

2004年7月より、毎月10日を「ときめきポイント5倍デー」とし、カードショッピングご利用分に通常の5倍のときめきポイントを付与するサービスを開始いたしました。

これまでの20日、30日の「お客さま感謝デー」に加え、10日の「ときめきポイント5倍デー」を実施することにより、10日に1回というショッピングに最適なタイミングで、カード会員さまに特典をご提供することができるようになりました。7月のサービス開始より、会員さまに大変ご好評いただいております。カード稼働率の向上に成果をあげるとともに、継続的にカードをご利用いただける会員さまの拡大につなげることができております。



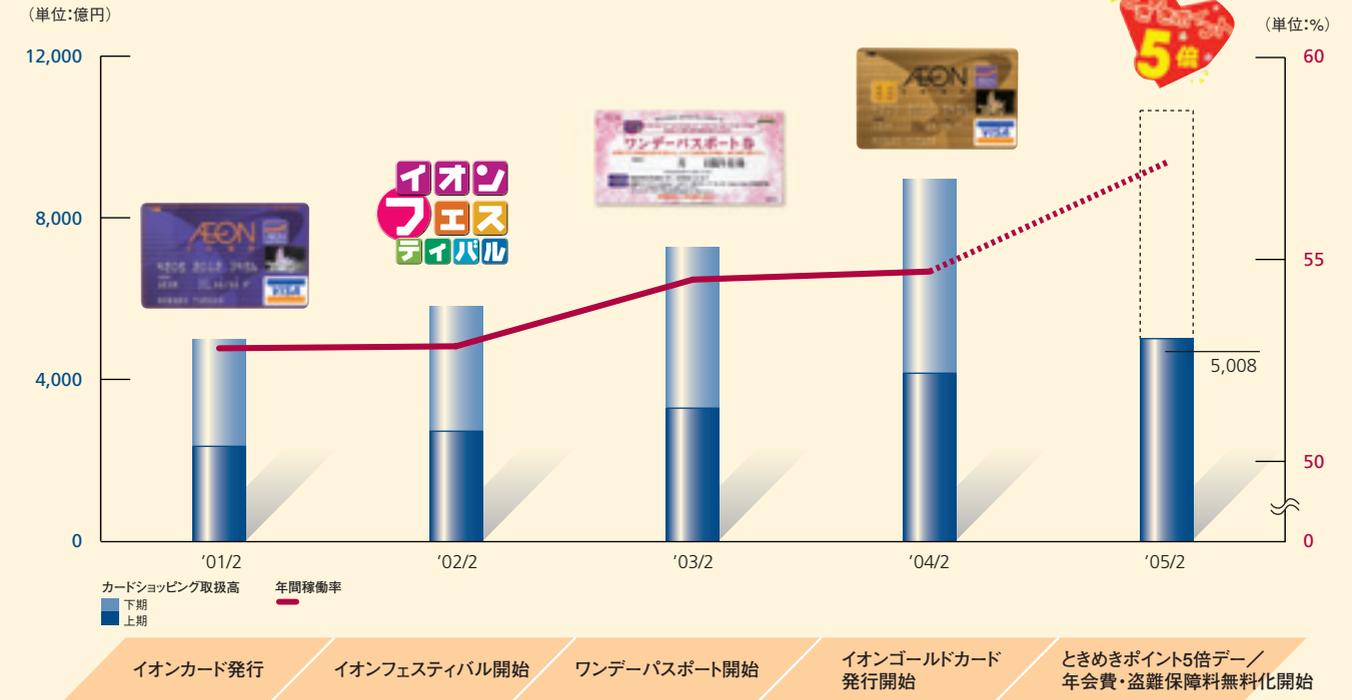
新サービス2

全てのカードの盗難保障料およびETCカードの年会費を**無料化**

2004年8月より、全てのカードの盗難保障料およびETCカードの年会費の無料化を開始いたしました。ゴールドカード、ETCカードを含む全てのカードを無料で提供するのは業界初となります。このような取り組みにより、お得感を強くアピールすることで、稼働率が高いETCカードのお申込み件数を大幅に拡大させることができております。



カードショッピング取扱高と年間稼働率の推移



当社ならではのサービスを、さらなる成長の原動力へ

当社は創業以来、「お客さま第一」、「生活に密着した金融サービスの提供」の経営方針のもと、「お客さま感謝デー」、イオングループ各社の特典を1枚に集約した「イオンカード」の発行、「イオンフェスティバル」、「ワンデーパスポート」、年会費無料の「イオンゴールドカード」の発行等、カード会員さま向けのサービスを数多く提供してまいりました。カードの魅力を高めるこれらのサー

ビスは、多くの会員さまにご支持いただき、稼働率、カードショッピング取扱高の拡大に大きく貢献してまいりました。当中間期より開始した「ときめきポイント5倍デー」、「盗難保障料およびETCカードの年会費の無料化」という2つのサービスを新たな原動力として、当社はさらなる成長を目指してまいります。

イオンクレジットサービス(株)

カード会員の拡大

提携先店舗での会員拡大、インターネットを活用した会員募集に加えて、アウトレットモールと提携した「コンサートカード」や女性に人気のキャラクターをデザインした「サンエックスカード」など、趣味趣向を切り口としたアフィリエイトカードの発行を通じて、新たな顧客層を開拓することができました。また、クレジット業界で初めて、ゴールドカード、ETCカードを含む全てのカード年会費および盗難保障料の無料化を行うなどカード会員の拡大に取り組んだ結果、新規カード会員の獲得数は75万人、当中間期末のカード会員数は1,247万人(前年同期比7.1%増)となりました。



コンサートカード(上)、サンエックスカード(下)

カード稼働率向上への取り組み

「バースデーパスポート」を新たに開始するなど、加盟店との共同企画をより一層推進するとともに、携帯電話料金、公共料

金などを切り口とした登録型加盟店の開発強化に積極的に取り組みました。さらに、カードの魅力をより一層高めるため、「ときめきポイント5倍デー」を開始し、稼働会員の掘り起こしを行いました。これらの結果、過去1年間にカードをご利用いただいた会員数は38万人増の678万人となりました。

また、カードショッピング取扱高は5,008億18百万円(前年同期比20.6%増)と大幅に拡大させることができました。



新しい金融、サービスの提供

非接触ICカードにより、現金決済市場でスピーディーなオンライン小口クレジット決済を実現するサービス「QUICPay」を(株)JCBと共同で開発いたしました。また、シネマコンプレックスを展開するイオンシネマズ(株)と共同で、国内で初めて二次元コードを利用し、座席予約から決済、入場ま



で携帯電話で可能にするチケットレス入場システム「楽々チケット」を開始いたしました。

エヌ・シー・エス興産(株)

保険代理店事業

カードご利用明細書やダイレクトメール、インターネット上の「保険マーケット」、カタログスタンドを活用した無店舗販売をさらに強化するとともに、保険商品メニューの拡充を行い、保険契約数の拡大に取り組みました。また、国内最大18社の自動車保険の比較見積りが可能な「保険マーケット」におきましては、新たなサービスとして、お客さまの年齢、家族構成などを入力することにより、おすすめ保険をご案内するシミュレーションツール「おすすめ保険ナビ」をリリースし、サイトの利便性向上に取り組みました。

これらの取り組みにより、当中間期の営業収益は5億28百万円(前年同期比21.6%増)となり、着実に業容を拡大することができました。



保険マーケットに「おすすめ保険ナビ」が登場

エー・シー・エス債権管理回収(株)

サービス事業

これまでの「携帯電話料金」、「公共料金」といった小口債権の回収業務の受託を順調に増加させるとともに、日本学生支援機構(旧日本育英会)をはじめとする個人向け債権の回収業務の受託先拡大に積極的に取り組みました。さらに、東京、大阪、名古屋に続き、福岡にコンタクトセンターを開設し、業務運営体制の強化に取り組みました。

これらの取り組みにより、当中間期の営業収益は4億43百万円(前年同期比16.9%増)となり、順調に業容を拡大することができました。



コンタクトセンター

香港 イオンクレジットサービス(アジア)

さらなる成長に向けた営業活動を展開

中国でのカード利便性拡大のために、カード決済ネットワーク「中国銀聯(China UnionPay)」と提携し、加盟店(6万店)、

CD・ATMネットワーク(8,000台)の相互開放を行い、増え続ける中国本土からの個人旅行者へのサービス提供と中国本土でのカード利用促進に取り組みました。

お客さまの様々なニーズに対応するため、VISA、MasterCard、American Expressの3つの国際ブランドに加え、新たにJCB

と提携した「AEON/JCBトラベルカード」の発行を開始し、香港カード業界で初となる4つの国際ブランドをラインアップすることができました。

景気回復を背景に消費が活発化する中、積極的な営業展開を行った結果、当中間期の営業収益は4億6百万香港ドル(前年同期比2.9%増)となりました。



中国本土最大のカード決済ネットワーク「中国銀聯」



AEON/JCBトラベルカード

タイ イオンタナシンサップ(タイランド)

クレジットカード事業を強力に推進

バイクアクセサリ専門店との提携カード「KPNプラスカード」の発行、コンビニエンスストアのファミリーマート500店舗を通じた会員募集チャネルの拡大により、累計会員数は13万人増の126万人に拡大させることができました。

また、登録型加盟店として首都圏電気公社(MEA)と契約を行い、タイで初めて電気料金のカード決済を開始いたしました。さらに、大手保険会社のACE保険との提携により、月払いの個人傷害保険の販売を開始いたしました。

これらの取り組みにより、当中間期の営業収益は22億54百万バーツ(前年同期比15.9%増)と順調に推移しております。



ショッピングセンター内のカードカウンター

KPNプラスカード

マレーシア イオンクレジットサービス(マレーシア)

クレジットカード発行ライセンスを取得

マレーシアで外資系ノンバンクとして初めて、クレジットカード発行ライセンスを取得いたしました。現在クレジットカード発行に向けて準備を進めております。

新しいスキームによるハイパーパーチェスを開始

国営貯蓄銀行バンク・シンパナン・ナショナル(Bank Simpanan Nasional)と提携し、同行の預金証書を担保としたハイパーパーチェスを開始するとともに、加盟店ネットワークを4,000店まで拡大いたしました。さらに、クレジットニーズの高いモーターバイク、デジタル家電のハイパーパーチェスにおいて加盟店との共同プロモーションを強化し、取扱高の拡大に取り組みました。

これらの取り組みにより、当中間期の営業収益は22百万リンギット(前年同期比32.3%増)と事業拡大に弾みをつけることができました。



バンク・シンパナン・ナショナルとの調印式

台湾 イオンクレジットカード(台湾)、イオンクレジットサービス(台湾)

新しい提携カードを発行

クレジットカード事業を展開するイオンクレジットカード(台湾)は、加盟店との共同企画「ワンデーパスポート」などの実施により、



台湾の新規提携カード2種

カードショッピングの取扱高を大幅に拡大することができました。また、提携カードの発行にも積極的に取り組み、2種類の新規提携カードの発行を開始いたしました。

加盟店ネットワークを拡大

ハイパーパーチェス事業を展開するイオンクレジットサービス(台湾)は、加盟店ネットワークを300店増の2,400店に拡大するとともに、加盟店との共同プロモーションを積極的に推進いたしました。

その他のアジア各国での事業

アジアネットワークの拡大

中国・深圳にて事業展開しておりますイオンインフォメーションサービス(シンセン)では、コールセンター業務、債権回収業務の強化に加え、家電等の割賦販売の審査代行を通じたプロセッシング業務を推進し、今後の中国本土での事業展開の準備を進めております。

また、香港、タイ、台湾のカード会員数が日系ノンバンク最大規模となる200万人を突破するなど、アジアでのクレジット事業はこれからも飛躍的な成長が見込まれています。当中間期は、アジアでのクレジット事業をさらに拡大させるため、新たに中国の広州とインドネシアのジャカルタに事務所を設置いたしました。



コーポレート・ガバナンスへの取り組み

当社では、法令遵守、個人情報保護、環境保全、社会貢献活動など当社が金融サービス企業として社会に果たすべき責任をより一層明確化するため、専任役員を配置するとともに、「管理本部」を「CSR本部」に改め、コーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組みました。

個人情報保護への取り組み

個人情報保護への取り組みとして、社長を委員長とする「個人情報安全管理委員会」において、個人情報の取り扱いに関する組織的、技術的、人的、物理的安全管理措置の評価・見直しを行うとともに、専任部門として「個人情報保護室」の設置

や、全国の支店・営業所、事務センター毎に「個人情報安全管理者」を任命し、個人情報の安全管理体制を強化いたしました。この組織体制の下、個人情報の取り扱いに関する安全管理措置について、全ての従業員に教育・研修を実施し、従業員の個人情報保護に対する意識と、安全管理措置の実効性の向上に継続して取り組んでおります。

個人情報保護を強化するため、新たに2つの認証を取得

当中間期は、「品質 ISO9001」、JISQ15001の要求事項を満たす「プライバシーマーク」の取得に続き、2004年7月に財団法人日本品質保証機構より「情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 適合性評価制度」の認証を取得いたしました。

さらに、当社 WEB サイトの「イオンネットブランチ (<http://www.aeoncredit.co.jp/>)」、「イオンマーケット (<http://www.aeonmarket.com/>)」において、NPO 法人日本技術者連盟より、オンライン取引における個人情報保護体制が、国際的信用と信頼を得るためのガイドラインに準拠したサイトであることを認証する「TRUSTe」を取得いたしました。

当社は、今後も個人情報保護の強化をはじめ、コーポレート・ガバナンスの充実に引き続き取り組んでまいります。

環境保全、社会貢献活動

イオン1%クラブ、イオン環境財団を通じた活動では、「万里の長城」、「アンコールワット」等の国内外の植樹活動に積極的

に取り組むとともに、「トキを森に返そう! キャンペーン」、「ネパール学校建設支援募金」、「地雷をなくそうキャンペーン募金」等の募金活動を積極的に行いました。

また、身障者施設の季節行事に、近隣支店・営業所よりボランティア活動として参加するとともに、「ときめきポイント」を通じた日本点字図書館への点字図書、テープ図書の寄贈に継続して取り組んでおります。さらに、チャリティ機能付きカードや「ときめきポイント」を通じた寄附による全国の森林保護、自然環境保全活動を実施するとともに、「環境 ISO14001」で定めた環境方針を確実に実現するため、事務用品の発注を一本化しグリーン購入 100%の徹底と電気使用量の削減、二酸化炭素の排出量を抑制する「地球温暖化防止キャンペーン」へ積極的に取り組んでおります。



事務集中センターにはセキュリティゲートを設置し、入退出を管理

パソコン起動時に、生態認証による本人確認システムを導入



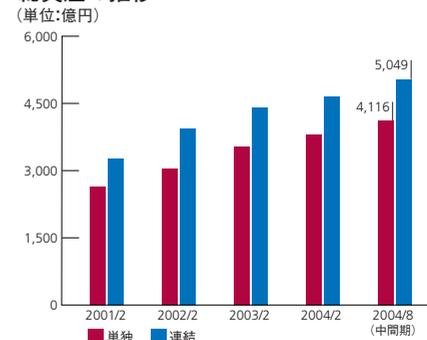
「万里の長城・森の再生プロジェクト」での植樹

中間連結財務諸表の概要

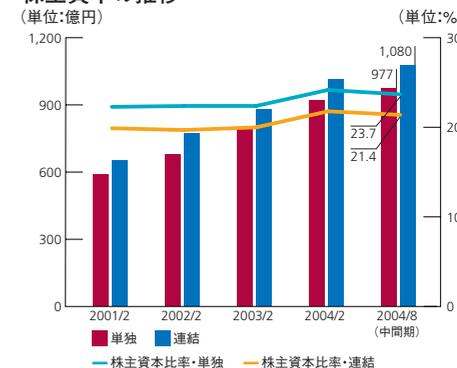
中間連結貸借対照表

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年8月20日現在)	当中間期 (2004年8月20日現在)	前期 (2004年2月20日現在)
資産の部			
流動資産	453,723	484,147	446,820
現金及び預金	13,700	17,223	15,999
割賦売掛金	149,603	133,380	117,803
営業貸付金	285,659	325,987	304,293
その他	18,894	24,961	23,191
貸倒引当金	△ 14,134	△ 17,406	△ 14,467
固定資産	19,133	20,843	18,898
有形固定資産	6,418	5,068	5,454
無形固定資産	2,642	3,713	2,588
投資その他の資産	10,072	12,060	10,855
資産合計	472,857	504,990	465,719
負債の部			
流動負債	160,317	123,470	128,936
買掛金	40,293	42,956	48,529
短期借入金	23,884	20,111	21,892
1年以内返済予定の長期借入金	58,553	38,726	33,460
1年以内返済予定の社債	—	2,640	—
コマーシャル・ペーパー	23,000	—	8,000
その他	14,585	19,035	17,055
固定負債	208,407	262,575	224,900
社債	52,860	60,000	52,740
長期借入金	153,876	200,701	170,092
その他	1,671	1,873	2,067
負債合計	368,725	386,046	353,836
少数株主持分	10,222	10,940	10,188
資本の部			
資本金	15,466	15,466	15,466
資本剰余金	17,046	17,048	17,046
利益剰余金	59,136	73,156	67,463
その他有価証券評価差額金	2,243	3,271	2,709
為替換算調整勘定	61	△ 876	△ 936
自己株式	△ 45	△ 62	△ 55
資本合計	93,908	108,003	101,694
負債、少数株主持分及び資本合計	472,857	504,990	465,719

総資産の推移



株主資本の推移



中間連結損益計算書

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年2月21日から 2003年8月20日まで)	当中間期 (2004年2月21日から 2004年8月20日まで)	前期 (2003年2月21日から 2004年2月20日まで)
経常損益の部			
営業収益	51,907	58,682	109,389
総合あつせん収益	9,726	11,808	21,005
個品あつせん収益	3,330	2,812	6,442
融資収益	34,993	40,507	72,958
融資代行収益	1,623	1,414	3,128
その他収益	2,232	2,139	5,874
営業費用	39,614	44,287	78,886
営業利益	12,292	14,395	30,502
営業外収益	89	151	153
営業外費用	37	60	118
経常利益	12,343	14,486	30,537
特別損益の部			
特別利益	—	—	108
特別損失	—	146	354
税金等調整前中間(当期)純利益	12,343	14,339	30,292
法人税等	5,050	5,710	12,266
少数株主利益	748	1,051	1,846
中間(当期)純利益	6,544	7,578	16,179

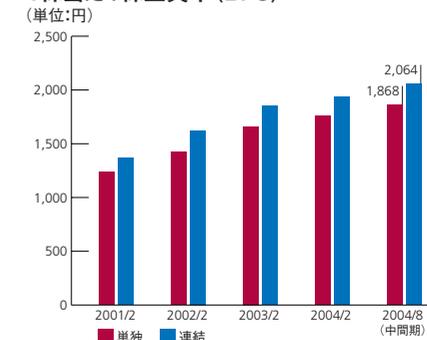
中間連結剰余金計算書

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年2月21日から 2003年8月20日まで)	当中間期 (2004年2月21日から 2004年8月20日まで)	前期 (2003年2月21日から 2004年2月20日まで)
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	17,046	17,046	17,046
資本剰余金増加高	0	1	0
自己株式処分差益	0	1	0
資本剰余金中間期末(期末)残高	17,046	17,048	17,046
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	54,075	67,463	54,075
利益剰余金増加高	6,544	7,578	16,179
中間(当期)純利益	6,544	7,578	16,179
利益剰余金減少高	1,483	1,885	2,791
配当金	1,426	1,830	2,734
役員賞与金	56	54	56
利益剰余金中間期末(期末)残高	59,136	73,156	67,463

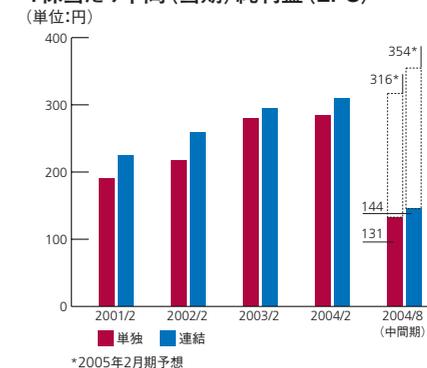
中間連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年2月21日から 2003年8月20日まで)	当中間期 (2004年2月21日から 2004年8月20日まで)	前期 (2003年2月21日から 2004年2月20日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,684	△ 31,005	8,390
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,688	△ 2,374	△ 1,193
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,447	34,730	△ 5,887
現金及び現金同等物に係る換算差額	44	△ 47	△ 271
現金及び現金同等物の増加額	△ 2,880	1,303	1,037
現金及び現金同等物の期首残高	14,882	15,919	14,882
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	12,001	17,223	15,919

1株当たり株主資本(BPS)



1株当たり中間(当期)純利益(EPS)



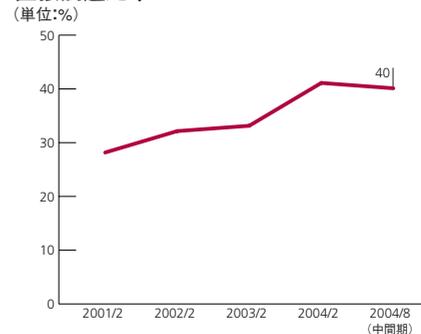
*2005年2月期予想

中間単独財務諸表の概要

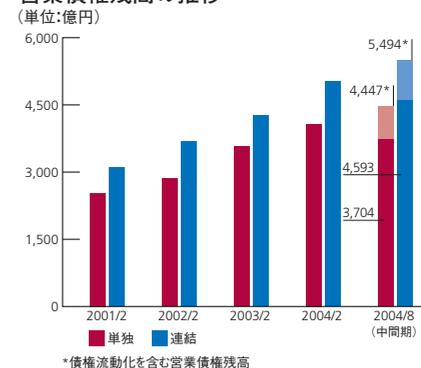
中間単独貸借対照表

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年8月20日現在)	当中間期 (2004年8月20日現在)	前期 (2004年2月20日現在)
資産の部			
流動資産	367,061	391,129	361,559
現金及び預金	8,005	13,421	11,613
割賦売掛金	112,209	96,769	84,882
営業貸付金	241,349	273,660	257,164
その他	14,642	20,592	18,483
貸倒引当金	△ 9,145	△ 13,314	△ 10,584
固定資産	19,177	20,489	18,904
有形固定資産	3,766	2,758	3,074
無形固定資産	2,011	2,596	1,706
投資その他の資産	13,399	15,134	14,123
資産合計	386,238	411,618	380,463
負債の部			
流動負債	122,756	89,331	92,622
買掛金	38,698	41,422	47,124
短期借入金	6,083	6,601	5,860
1年以内返済予定の長期借入金	42,700	26,300	17,700
コマーシャル・ペーパー	23,000	—	8,000
その他	12,274	15,007	13,937
固定負債	179,068	224,527	195,579
社債	50,000	60,000	50,000
長期借入金	128,200	163,300	144,500
その他	868	1,227	1,079
負債合計	301,825	313,859	288,201
資本の部			
資本金	15,466	15,466	15,466
資本剰余金	17,046	17,048	17,046
利益剰余金	49,717	62,175	57,170
その他有価証券評価差額金	2,228	3,131	2,633
自己株式	△ 45	△ 62	△ 55
資本合計	84,413	97,758	92,261
負債及び資本合計	386,238	411,618	380,463

直接調達比率



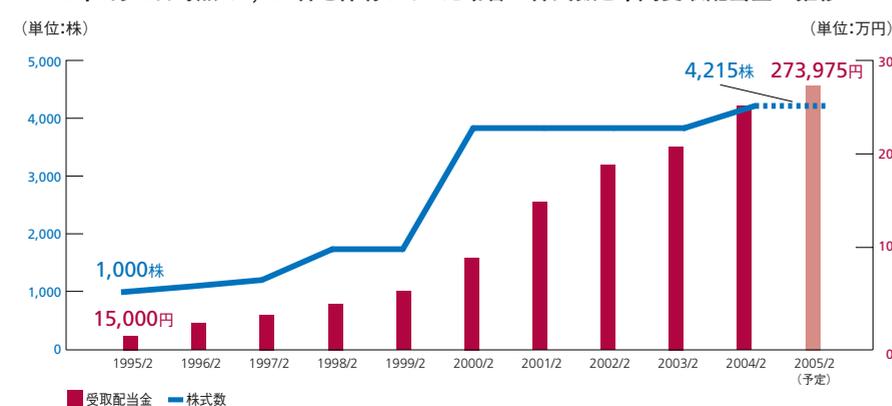
営業債権残高の推移



中間単独損益計算書

	(単位:百万円)		
	前中間期 (2003年2月21日から 2003年8月20日まで)	当中間期 (2004年2月21日から 2004年8月20日まで)	前期 (2003年2月21日から 2004年2月20日まで)
経常損益の部			
営業収益	39,185	45,299	83,090
総合あっせん収益	8,414	10,280	18,107
個品あっせん収益	15	9	26
融資収益	27,758	32,511	58,061
融資代行収益	1,627	1,419	3,137
その他収益	1,369	1,078	3,757
営業費用	28,976	33,780	57,557
営業利益	10,209	11,519	25,533
営業外収益	455	516	711
営業外費用	31	46	103
経常利益	10,632	11,988	26,141
特別損益の部			
特別損失	—	146	320
税引前中間(当期)純利益	10,632	11,842	25,820
法人税等	4,523	4,960	10,949
中間(当期)純利益	6,109	6,881	14,870
前期繰越利益	9,833	11,539	9,833
中間配当額	—	—	1,307
中間(当期)未処分利益	15,943	18,421	23,396

1995年2月20日時点で1,000株を保有していた場合の株式数と年間受取配当金の推移



単独損益計算書の概要

営業収益
452億99百万円(前年同期比15.6%増)

総合あっせん収益
102億80百万円(前年同期比22.2%増)

当中間期は、「ときめきポイント5倍デー」や「バースデーパスポート」など新サービスを導入しカードの魅力を高めるとともに、「毎月ご利用金額」を切り口とした登録型加盟店の開発を強化した結果、カードショッピング取扱高を5,008億18百万円(前年同期比20.6%増)と大幅に拡大することができました。

融資収益
325億11百万円(前年同期比17.1%増)

カード会員数を順調に増加させるとともに、充実したCD・ATMネットワークの活用により、カードキャッシング取扱高も2,014億81百万円(前年同期比14.1%増)と拡大することができました。

これらの結果、当中間期の営業収益は、452億99百万円となり、当初計画の436億円を上回ることができました。

配当金について

1株当たりの中間配当金 **30円**

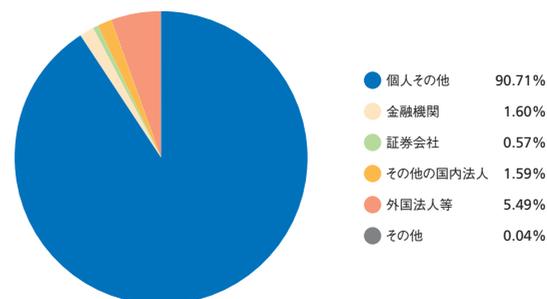
当期の中間配当金につきましては、1株につき30円とさせていただきます。前期の中間配当金は1株につき25円とさせていただきますので、前期と比較し5円の増配となっております。なお、当期の期末配当金は35円を予定しており、中間配当金と合わせて年間配当金は65円となる予定です。

(2004年8月20日現在)

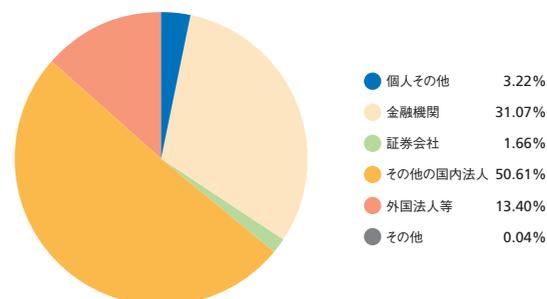
■ 株主数	4,920名
■ 会社が発行する株式の総数	180,000,000株
■ 発行済株式総数	52,322,336株
■ 大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
イオン株式会社	23,604	45.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,542	8.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,126	7.89
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	1,240	2.37
マックスバリュ西日本株式会社	882	1.69
ミニストップ株式会社	763	1.46
野村證券株式会社	734	1.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・ 株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	715	1.37
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	630	1.21
インベスターズ バンク	536	1.03

所有者別株主数の構成比 (4,920名)



所有者別株式数の構成比 (52,322,336株)



(2004年8月20日現在)

■ 商号	イオンクレジットサービス株式会社
■ 上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部(証券コード: 8570)
■ 本店	東京都千代田区神田錦町一丁目1番地
■ 電話番号	(03) 5281-2030 (代表)
■ URL	http://www.aeoncredit.co.jp/
■ 設立	1981年6月20日
■ 資本金	154億6,650万円
■ 従業員数	3,116人(連結) 757人(単独)

(2004年5月12日現在)

■ 取締役および監査役	
代表取締役社長	森 美樹
専務取締役	神谷和秀
常務取締役	浅井啓志
常務取締役	斉藤達也
取締役	河田和彦
取締役	上山政道
取締役	近藤安彦
取締役	清永崇司
取締役	高野清昭
取締役	古谷 寛
常勤監査役	葛西 謙
監査役	木村洋一
監査役	斎藤 稔
監査役	杉原弘泰

ホームページのご案内

<http://www.aeoncredit.co.jp/aeon/>

「会社情報・IR情報」のホームページでは、最新のニュースリリースやカード取扱高の月次情報等をタイムリーに掲載するとともに、各種財務諸表や、当社の業績を一目でご理解いただけるよう財務データのハイライトを設けております。

これからも、株主の皆さまに当社の経営活動へのご理解をより深めていただけるよう、ホームページでの情報開示に積極的に取り組んでまいります。



株主メモ

■ 決算期	毎年2月20日
■ 定時株主総会	毎年5月20日までに実施
■ 名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
■ 同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
■ お問い合わせ先 郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03) 5213-5213 (代表)
■ 同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
■ 1単元の株式の数	100株
■ 公告掲載新聞	日本経済新聞
■ 決算公告のホームページのご案内	当社の決算公告は、第22期より日本経済新聞による決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ (http://www.aeoncredit.co.jp/) に掲載することといたしましたので、こちらでご覧いただけます。